新生病院グループ広報誌　No.101　創立90周年特別号

新生だより

特定医療法人 新生病院
NPO法人 パウル会・ワンダイム
日本医療機能評価機構

地域の皆さんに向けて新生病院グループの「いま」を発信しています。

2022年11月26日発行　発行人：特定医療法人新生病院　理事長 渋澤 一郎

2022年10月 新生病院グループは創立90周年を迎えました

90年の歩みへの感謝と、100年に向けた新たな歩みだし

ご挨拶

新生病院はその前身である新生療養所開所から数えて本年創立90周年を迎えることができました。ここ小布施の地を基盤としてこの地域の医療を長きにわたり担って来ることができましたのも、ひとえに今まで新生病院に関わってくださいました多くの方々のご支援の賜物であると心より感謝申し上げます。

日本の結核患者を救いたいというカナダ聖公会の心ある働きにより誕生した新生療養所は90年経過し、大きく変化してきました。改めて、創立の決意や精神に立ち返り、現在、そしてこれからの私たちの働きはどうあるべきかを見つめ直すことが必要だと強く感じております。新生病院グループはまだまだ発展途上にあります。今一度思いを新たにし、医療・看護・介護・福祉・生活支援を必要としている方々一人ひとりに、最も良いものを提供し、お応えできるよう、100年へ向かって参りたいと願っています。

今後とも温かく、かつ厳しい目を持ってお支え、ご指導いただければ大変嬉しく思います。これからも変わらないご支援をお願い申し上げます。

特定医療法人新生病院
理事長　渋澤 一郎

90年間変わらない志で 未来に向かって

1930年頃、日本の結核蔓延の窮状に対して、当時北信地域で宣教活動を行っていたカナダの宣教師達が我がことのように向き合い、カナダの教会で日本の結核患者の救済のため寄付を募ったことが、新生療養所のはじまりです。当時の結核のイメージや異国の人に対する保守的なイメージもあって、日本各地で建設を断られましたが、34番目の候補地だった小布施村が当時の村長の強いリーダーシップにより、ようやくこのミッションを受け入れました。そして1932年、集められたたくさんの心ある募金により、新生療養所が誕生し、初代院長R・K・スタート博士をはじめ、カナダから気高い志をもった看護師、宣教師が訪れました。「新生療養所は国籍や宗教の違いに関わりなくすべての人に開かれていること」を根本的な想いとしてその営みがはじめられました。当時の写真には、愛情をもって患者さんと向き合うカナダの医療者たちの姿が残されています。

戦争によるカナダ人職員の引き上げ、結核療養所から一般病院への転換、宗教法人から医療法人への法人形態の変更など、幾多の変化と困難に向き合う中で、創設者たちの想いと新生療養所の信念は変わらず受け継がれてきました。

「生きていくこと」「老いていくこと」「病気になること」「人生を閉じていくこと」それぞれに苦しみや困難が伴います。創設者たちは「100分の1の仕事（日本全国の結核患者すべてを救済することはできないが、この療養所が関わりを持つことができる患者さんすべてに精一杯奉仕する）でも我々のなすべき義務である」という言葉を残しました。たとえその人の人生に対して私たちが提供できることは僅かなことであっても、「医療」「福祉」「介護」「生活支援」などの働きを通してお手伝いをさせていただきたいと願っています。

今日の新生病院を創りあげてきた「カナダミッションの方々」「地域の方々」そして「歴史を繋いできた職員」…関わりあってくださった全ての方々への感謝と設立時からの理念を胸に、今後も地域に必要とされる法人運営に努めて参ります。

患者さん、利用者さん、またそのご家族様一人ひとりが、その方らしい人生を歩んでいただくために

記念誌を発行しました！

この度、90周年記念誌を発行しました。この記念誌では、歴史はもちろんのこと、今まで注目されていなかった偉大な働き人にまつわるエピソードなども紹介されています。

ホームページからもご覧いただけます！

創立90周年記念式典・院長講演・コンサートが行われました

2022年10月22日(土)、小布施町健康福祉センター千年樹の里にて「創立90周年記念式典」、同日北斎ホールにて「記念講演・コンサート」が開かれました。

式典には、日本聖公会・行政・連携医療機関・連携福祉施設などの関係者、地域の方々、新生病院歴代正副院長をはじめとする病院関係者をお招きし、90年にわたる新生病院の歩みを振り返る時を持ちました。

場所を変え北斎ホールでは、石井栄三郎院長による「小布施町と新生病院」と題した記念講演が行われました。

コンサートでは、マンドリンデュオ「MUZIC@NET/マリオネット」「マンドリンオーケストラ」「小布施女声コーラス」の共演による“小布施への道（かつて70周年を記念して創られた楽曲）”が披露され、観衆を魅了しました。ご参集いただいた方々とともに100年に向けた新たな歩み出しの時を分かち合うことができましたことを心より感謝申し上げます。

新生病院グループの歩みを知る 賢者たちの森ご紹介

新生病院敷地内(礼拝堂東側庭)に“賢者たちの森”が誕生しました。

新生病院敷地内庭は、以前より小布施町の町づくり事業の一環である「おぶせオープンガーデン」として開放されてきましたが、礼拝堂東側の敷地は未だ整備が行き届いておりませんでした。創立90周年記念事業として、地域のボランティアの皆さんや職員により植樹・整備が進められ、「賢者たちの森」(公園)として生まれ変わりました。

竣工式では、新生病院グループに関わりのある方々により、今回設置された17基の歴史解説板の除幕が行われました。

解説板の除幕を行う山彦会の方々

“賢者たちの森”の由来

「賢者たちの森」という公園名は、アメリカの作家O.ヘンリー(1862 ～1910年)の作品「賢者の贈り物(The Gift of The Magi)」に着想を得たものです。この作品はクリスマスの日にプレゼントを贈りあった夫婦の物語です。

新生病院を小布施の地に作ったのは、カナダで募金をしてくださった方々や、奉仕のために来日したカナダ人スタッフ、「賢者たち」の善意であり、祈りであり、贈り物でした。また、それらを受け入れて共に歩んでくださった小布施の方々、結核の患者さんや家族のために自らをささげ、地域医療の発展に尽力した病院の職員達もまた、「賢者たち」でした。

これら有名・無名の「賢者たち」の足跡を記念することが、本公園の趣旨です。

“賢者たち”の歩みを知る歴史解説板

公園には、17基の歴史解説板が設置されています。新生病院グループのはじまりから今日に至るまでの数々の足跡、そしてこの先の未来のこと。

歩道を散策しながら、「日本・カナダ両国の絆」、そして病院の働きを通して賢者たちが伝えてきた「愛と奉仕の精神」を感じていただければ幸いです。

NPO法人パウル会の由来や
「世界一のパン チェルシーバンズ」の物語
にも登場する「ミス・パウル」
に関する解説も

みんなの手で みんなの想いの詰まった公園

「賢者たちの森」は、以前より“緑化フェスタ”“緑化の日”などのイベントを通して奉仕をしてくださった地域ボランティアの皆様、また職員ボランティアなど多くの方々の力により誕生しました。

時を重ねるごとに木々が成長し、花が咲き、紅葉し、落葉する。そんな四季の移ろいを感じられる場所でありながら、創設者、そして新生病院グループと関わる全ての人々の歩みを体感できる歴史の学びの場、集いの場でありたいと願っております。

ボランティアの皆さんの作業の様子

※賢者たちの森をはじめ、病院敷地内全体は療養空間となっておりますので、散策につきましては日の出から日の入りまでのお時間にお願いいたします。

おぶせオープンガーデンって?

個人の庭などを一般の方に公開するオープンガーデン。訪れた方々を花でもてなし、心の交流を図る、小布施町の官民が一体となって取り組んでいる活動です。案内板が設置してあるお庭なら出入りは自由。この「賢者たちの森」をはじめ町内のオープンガーデンで、ぜひ“お庭めぐり”をお楽しみください。

賢者たちの森に広がる植物

メイプルの他、サクラ、ヒノキ、クヌギ、コナラ、クルミ、ケヤキ、モミノキなど。植樹したばかりの小さな木々もあります。2年、3年、そして10年後にはどんな姿になっているのでしょうか。

― 特定医療法人 新生病院 ―

―基本理念―

わたしたちはキリストの愛と精神にもとづき
医療を通して全ての人々に仕えます。

1. キリストの教えと行いに学び、「全人医療」を実践します。
2. 全ての人々に、人や人種による差別なく、小布施という「地域」の中から「世界中」の人々に。
3. キリストの精神である「仕える」ことによって「新たな生」が始まります。

―基本方針―

1. 命の尊厳　私たちは命の尊厳を大切にした医療に取り組みます。
2. 連携　私たちは、小布施町を中心とした「地域」の中で、医療・福祉・保健・介護・行政を担う各機関との連携を通して、命の尊厳と質を患者さんとともに追求できる医療体制の構築に取り組みます。
3. 人財の育成　私たちは、業務の遂行を通して、社会に貢献することを喜びとする人財の育成に努めます。
4. 健全経営体質　私たちは、良質な医療を安定・継続して提供できるよう、健全な経営の構築に努めます。

― 特定非営利活動法人 パウル会 ―

―基本理念―

「奉仕」「感謝」「信頼」

わたしたちは、ミスパウルを象徴とするカナダミッションの志に習い、奉仕の精神をもって地域福祉に貢献します。

わたしたちは、命の大切さを尊び、愛情と感謝の心を持ち続けます。

わたしたちは、自らの仕事に誇りを持ち、全ての人に誠実で丁寧に向き合い、信頼関係を深めます。